

事業実績書

事業名	「ぷらタコリ」-歩いて知ろう沼津の歴史・地理・文化-	
場所	沼津市大手町一帯、本郷町霊山寺、金岡地区、原地区センター	
期間	平成28年7月4日 ~ 平成29年3月31日	
	日程	実施項目・作業項目
事業内容		<p>第1回企画「ぐるっとまわろう沼津城」</p> <p>打合せ、資料準備、取材など8月上旬から (明治史料館所蔵の沼津城復元模型の写真撮影など)</p> <p>広報沼津9月1日号に案内掲載 9月8日より募集開始</p> <p>9月10日(土) ボランティアスタッフとコース下見 ボランティアスタッフ3名+高校生ボランティア3名 (交通安全見守りなどの支援)</p> <p>9月25日(日) 10時~12時実施 ラクーン3階の「ぬまづのたかラボ」をオリエンテーション会場にした。</p> <p>(内容)</p> <p>旧沼津城のあった一帯をまわり、地形から城の痕跡などを見た。また、いくつかのデータに基づき沼津城の大きさを皆で考えた。新仲見世の「テレビのイマイ」社長のまちづくりの話を聞いた。</p>
		<p>第2回企画「霊山寺から見える?リアル『もののけ姫』の世界」</p> <p>打合せ、取材、資料準備など10月中旬から</p> <p>広報沼津11月1日号に案内掲載 11月8日より募集開始</p> <p>11月5日(土) 霊山寺ご住職を訪問し、内容説明と最終立ち入り承諾を頂く。 ボランティアスタッフ3名(交通安全見守りなどの支援)</p> <p>11月23日(水) 10時~11時半実施(天候悪化のため早めに終了した)</p> <p>(内容)</p> <p>霊山寺墓地の五輪塔を実際に見学し、鎌倉時代の沼津と当時全国ネットワークを持っていた律宗の関係を考えた。墓の歴史などを考察した。先端技術を持ち、独自の経済基盤をもってハンセン病患者と向き合った律宗とアニメ『もののけ姫』に登場するたたら場の共通点を考えた。律宗僧忍性の童話(一部)の読み聞かせを行った。</p>
		<p>第3回企画「東熊堂砦と『おんな城主直虎』時代の沼津」</p> <p>打合せ、取材、資料準備など12月中旬から</p> <p>明治史料館元職員大庭晃氏に愛鷹山と江原素六に関する解説を依頼した。</p> <p>1月23日(日) ボランティアスタッフ、大庭氏とともにコース下見。</p> <p>1月29日(日) 10時~12時実施</p> <p>(内容)</p> <p>金岡地区の愛鷹山裾にある谷と尾根を巡り、戦国時代の砦の痕跡を探した。さまざまな時代で、地形を利用した活動の跡となっている古墳(高尾山古墳、長塚古墳)を巡るとともに、江原素六の墓所を訪ね、明治時代に山裾の殖産について学んだ。</p>

追加企画「室内ぷらタコリ」（原地区センター）

資料準備など2月中旬から

3月12日（日）13時～15時実施

（内容）

ぷらタコリのテーマ解説。

ぷらタコリを観光に結びつけよう。沼津城のコースをモデルに、オススメの店などを地図に落とした。新しいコースの候補を考えた。

第1回写真

（左：城外堀跡と思われる場所と段差の説明。右：テレビのイマイの前での参加者集合写真）



第2回写真

（上左：靈山寺五輪塔前での説明。上右：ボランティアスタッフによる律宗僧忍性の童話読み聞かせ。下：律宗と『もののけ姫』の舞台の共通点解説）



第3回写真

（左：東熊堂砦の土塁跡が残る通称三角池前。右：駿河台への坂を段差を実感しながら登る参加者たち）



<p>事業効果</p>	<p>第1回企画参加者：ボランティアスタッフおよび主宰者伊藤も含めて32名（うち小学生3名） 第2回企画参加者：ボランティアスタッフおよび主宰者伊藤も含めて29名（うち小学生3名） 第3回企画参加者：ボランティアスタッフおよび主宰者伊藤も含めて24名（うち小学生3名） 追加企画参加者：11名 1～3回の資料代收り合計 39,000円</p> <p>企画ごとにアンケートを実施した結果、どの企画でも9割以上の参加者から「面白かった」という感想を頂いた。実際に歩くこと、実物を見ることを通して、歴史の面白さに触れて頂けたのだと思う。「沼津の歴史について、初めて知ることが多かった」という方々も多く、本事業参加者は新たな視点で地域を見ることができたのではないかと考える。史跡が保存さえされていれば、まちづくりの核となりうることも実感していただけた。</p> <p>また、追加企画では、歴史・地理と観光文化がより有機的に結びつけることが可能だということが明らかになった。</p> <p>facebookによる宣伝でも、参加希望者の募集ができたとともに、日程が合わない人とも、成果を共有できた。</p>
<p>今後の活動予定</p>	<p>追加企画の中で考えた新しいコース（例：「興国寺城跡と今川時代の沼津」、「車返の段差と奈良・平安の沼津」いずれも仮題）の実施を計画したい。今回の3企画コースについては、少人数のグループに対して随時開催する個別対応も考えている。</p> <p>その際には宣伝の方法が問題になる。今回は広報沼津や沼津朝日での宣伝が効果的であった。特に前者は、行政と民間事業の交流と言う観点で、ファンド助成がなくなっても活用できることを希望する。</p> <p>また、小学校・中学校など教育機関からの要望があれば積極的に対応したいと考えている。教育委員会と連携できることを望んでいる。</p>
<p>自己評価</p>	<p>当初から計画していた3回の企画全てで想定（20名程度）以上の参加者があったことから考えて、市民のニーズにマッチした企画だったと考えている（3回目については、インフルエンザ流行により、直前のキャンセル者が数名あった。申込み者数は1・2回目参加者とほぼ同じ）。モデルとした人気テレビ番組「ブラタモリ」が提示している新しい形の教養を、市民が求めているのではないだろうか。</p> <p>町中を歩く際の交通安全には、ボランティアを動員して十分配慮できたと自負しているが、上記参加者人数が上限である。多くの参加者を伴うニーズがあった場合、どのように応えていくのかが課題といえる。</p> <p>第3回企画では、はからずもコース最後にあった「武井牧場」の販売店前で休憩ができた。まちの歴史を巡りながら、店を紹介するイベントにもなるという手応えを持った。追加企画はこの手応えを補強するために急遽行ったものだが、今後は観光案内という視点からの下準備も重要になるだろう。</p>